

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500329		
法人名	有限会社 幸久の家		
事業所名	グループホーム陽だまりの森 湯と里館		
所在地	島根県大田市久利町久利691		
自己評価作成日	令和5年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー		
所在地	島根県松江市黒田町40番地8		
訪問調査日	令和5年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域周辺には小学校や保育園、老人会もあり、合同で運動会や花壇づくりなどの行事を行っている。また、地域のお祭りなどの行事への参加をし、地域交流を図っている。外部、内部研修、避難訓練などの参加、実施をして、質の向上を図っている。ご家族とは来所時や電話時に利用者様の状況を報告したり、行事への参加を呼び掛けている。ただし、今年度はコロナウイルスの関係でほとんどの行事、研修等の実施、参加ができなかった。食事については、ホームで作っており、可能な範囲でメニューを一緒に考えたり、調理への参加もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の小学校や保育園、老人会と合同の運動会や花壇作りの行事に加わり又、地域の祭り等の行事にも出かけて、地域交流を行って来ているが、新型コロナウイルス感染症蔓延のコロナ禍では、地域交流を控えている。家族には利用者の暮らしぶりを窓越し面会時や電話で報告したり、陽だまりの森だよりや献立表を毎月送り、情報提供に力を入れている。食事は、昼食を事業所で提供しているが利用者は力を活かして職員と共にできるだけ一緒にメニューを考えて調理し、配膳、食器洗いも行い、楽しい食欲を高める食事が支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”あなたらしく、自分らしく”という法人理念をもとに実践努力はしているが、話し合う時間も少ししか作れず、十分でないことも感じている。	理念は根本的なケアの原点として職員は共有し又、介護計画作成時には、理念を具体化する目標をたて、ケアプランに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入し、草刈りやごみ当番に参加している。町内の市議員の方は運営推進委員のメンバーである。通常、地域の老人会、小学校、保育園との交流もあるが、今年度はコロナウイルスの禍で交流はできていない。	自治会の一員として草刈りやごみ当番に今も参加をして地域とつきあっている。老人会や小学校、保育園との交流は普段しているが、コロナ禍で今年度は、事業所が卒業の生徒に贈物をする交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的なことは実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を実施して、活動状況の報告をしている。そこで頂いた意見はユニットの会議で検討し、結果を報告している。今年度もコロナウイルスの関係で紙面での報告とさせていただいた。	運営推進会議は書面会議で二か月に1回開催し、窓越し面会やコロナ禍の情報、要望等を報告し、その際に貰った意見等はユニット会議で検討して、その結果をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状としては、運営推進会議での意見交換にとどまっている。また、月に一度介護相談員が来所し、情報交換、利用者からの意見を聞き出してもらっている。相談員は運営推進委員でもある。	市担当者との連携は、運営推進会議で意見交換程度となっている。月に一度来所の介護相談員とは、利用者の聞き取り意見が報告され情報交換を行い、協力関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的開催し、その内容を周知し、各ユニット内で勉強会も開催している。現状、24時間施錠しているが、あくまで防犯目的であり、利用者が出たいときには開錠している。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回マニュアル利用で開催している。拘束禁止の内容は、各ユニットで勉強会を行い周知している。センサーの問題は共有し、スピーチロックも日々職員間で気を付けあっている。外出希望時には職員が付き添って支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はコロナウイルスの影響もあり、外部研修も少なく、参加もほとんどできなかった。虐待に関することがあれば基本的にユニットのミーティングで検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な成年後見制度等の学ぶ機会や関係者と話す機会などはほとんどない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限りの説明は行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、ほとんど活用はされていない。来所時や電話、運営推進会議などで必要な時に相談や意見を求めている。利用者については担当者会議で検討しているが、十分かどうかは判断しかねる。	家族からは、来所の折や電話、運営推進会議などから意見や要望を聞き又、利用者の要望は担当者会議で検討し、それらの結果は話し合われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらためて聞く場は設けていないが、会議で意見が挙がることもあり、内容に応じて上部で検討している。	職員の意見等を聞く機会は余りないが、ユニット会議で職員職員の勤務体制や人数、処遇等は職員会議にあげて管理者へ伝え、内容に応じて管理者等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と顔を会わす機会はほとんどない。職員の勤務状況等は適時上部に報告し、契約更新時などの状況に合わせて検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任やリーダー、本人から状況を聞き取り、把握に努めている。それに伴い本人に必要な研修などの参加を勧めているが、今年度は外部研修にはほとんど参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH部会に加入している。普段であればその部会の研修も開催され、参加しているが、今年度は研修の開催もなく、交流する機会はほとんどなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前に見学を勧めており(コロナウイルスの関係で今年度は動画を使用)、可能な限りの情報を聞きとっており、また、ご家族や、施設職員からも状況を聞き、本人の思い等の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にはご家族の意見、要望を確認している。誕生日の行事の際には、家族の意向を確認したり、普段の様子を報告したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定前に、可能な方には見学(コロナウイルスの関係で今年度は動画を使用)をし頂いた上で入居の判断をして貰っている。入居の意向は、ご家族、本人の意向を確認し、入居時のケアを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理等できることはできる限り一緒に行い、困り事等あれば傾聴して、共生の意識付けを目指しているが、今年度は、食事と一緒に出来ないで制限がかかる事もあり、暮らしを共にする関係性には遠いと思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの関係で窓越しやオンラインでの面会しかできず、十分な面会がほとんどできない状況であった。職員も時間をかけゆつくりと家族と話をすることは少なかった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会や面会できないこともあり、関わる機会がほとんどなかった。	コロナ禍では、外出支援は難しく、家族等の面会は窓越しで行われ、利用者の散髪は地域の理髪店の協力がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には介入し、利用者同士の会話がスムーズにいくようにしたり、一緒に作業できるようにしているが、関りがほとんどない方もおられるのが実際である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、具体的に相談、支援はできていないが、何か相談などあれば対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が図れる方には聞き取りをしたり、日々の生活の中での発言や行動、生活歴から、意向をくみ取り、プランに反映させている。	利用者の思いや意向等の把握は、会話の中から聞き取り又、日々の態度や様子、生活歴を見て、家族からの意見も傾聴しながら、本人本位に検討した内容は、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	周知としては個人記録を利用しているが、不適切な対応により、本来の有する能力や心身状態がわかりにくい現状もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り、ご家族、本人を交えての話し合いを目指しているが、今年度は特に難しい現状もあった。主治医には受診、往診時に意見を頂いている。	コロナ禍では、家族が来所し本人を交えての話し合いは出来ないため、家族から電話で意見を聞き取り、主治医から受診や往診の機会に意見をもらい、担当者会議で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録に残している。記録が十分でなかったり、周知できてない状況もある。基本的には半年に1回は計画の見直しを行っている。状態に変化があった時には都度実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、出来る限りの検討、対応を行っている。また、入院等で空きがある場合には短期利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度、地域交流は実施できなかった。地域に対し利用者が活躍できるような取り組みもできなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、ホーム側からは指定はせず、本人ご家族の意向で決定している。医療機関によっては往診もあり、特変時には往診対応もして貰っている。特変時はご家族とも相談して主治医に報告している。	受診支援は、本人や家族の意向を大切に、今までのかかりつけ医を主治医に決めている。協力医は往診や特変時の往診対応も行い、かかりつけ医には報告されて、家族も安心できる関係を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームと契約している訪問看護の看護師が定期的に訪問し健康管理をしてもらっている。特変時には24時間相談、訪問も可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりとして何かを行っているということには現状ない。利用者が入院されれば、情報提供を行い、入院中も状態確認、相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期での本人、ご家族の意向確認はできていないが、可能性が出た時点では確認し、ホームの意向なども伝えている。主治医、ご家族、訪問看護の協力を得て、看取った経験もある。	重度化して終末期を迎える時期が来ると家族とは事業所のできる範囲について説明しながら看取りの話は行われている。過去には家族や主治医、訪問看護の協力を得てチーム支援で看取りに取り組んだ経験をしている。	重度化対応・終末期ケアの対応方針マニュアルは、看取り経験を振り返って改善の余地について検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救急法の訓練は実施できなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分な訓練の実施が出来なかった。自動通報装置により地域の消防団の方にも連絡がいくようになっていく。	災害時の避難等の訓練はコロナ禍では思うようにできていないが、自動通報装置により地域消防団との連絡協力体制は築かれている。夜間対応の避難訓練計画はこれからする予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切でない声掛け、言葉遣いがあるの否 定できない。その際はミーティングで議題として挙げ、検討するようにしている。	高齢者ケアで大切な人間の尊厳の尊重は、一人一人の人格を尊重する声掛けや声の抑揚、言葉かけをミーティングで議題にあげ、職員間で話し合いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合に合わそうとしている現状も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わそうとしている現状も見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水をつける方はおられる。整容などできないかたは介助で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際、利用者の参加が少ないのが現状である。配膳や食器を洗ったり調理される方はおられる。職員が利用者と一緒に食事をすることはコロナウイルスの関係で控えている。	利用者は力を活かして職員と共に調理をするのは少人数であるが、配膳や食器洗いは、職員一緒に行い、行事食や牛乳餅等簡単なおやつ作りをしたり、色どりや盛付の工夫をして食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態などは個別に必要なに応じて対応している。また、本人の嗜好品などを取り入れ水分など確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の気持ちにも配慮しながらではあり、毎食後行えてない方もおられるが、夕食後には必ず実施している。自身でできる方もおられれば、介助を要する方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄と考えているが、個々の状態に合わせて、ポータブルトイレやパット類の使用をしている。	排泄は、トイレで用を足すを基本に排泄パターン表を利用して、一人ひとりのサインや行動を見ながらさりげない誘導でトイレ排泄を支援している。パッド類やポータブルトイレも本人に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供したり、水分摂取にも気を使っているが、下剤等の使用もしている状況。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方にかかる介護量などで入浴時間を決めていたり、湯船につかっていただくことができていない現状もあるが、できる限り、本人の希望に沿うようにしている。	入浴は、週2回を最低と決めて、介助のある人は日中に見守り入浴を行い、自立入浴の人で夜間入浴希望があれば対応して、個々に応じて入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣として寝間着への更衣もしているが、具体的な支援としてはあまりできていないように感じている。睡眠導入剤を服用されている方もおられたり、一斉に臥床を促している現状もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を服用されているか分かる様にファイリングはしているが、全職員が把握をしているかと言われれば、そうでないと思われる。重要と思われる薬はある程度副作用等の症状には注意出来ていると思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した生活を利用者がおこなっているかと問われると、できていないのではと思われる。毎日単調で楽しいと思える場面は少ないと思われる。ただ、その中でも洗濯物を畳んだり、軽作業はしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの関係で外出支援はほとんど実施できていない。	コロナ禍では、外出支援は殆ど実施できていないが、現状は散歩程度を行うこと又、受信時は近くをドライブをしたり買い物に立ち寄りする支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、自身で金銭管理をされている方はおられない。紛失や行動障害に発展することを恐れ、自己管理に対して抵抗がある職員も少なくない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がある方もおられるが、ほんの一部である。また、希望がある方にはLINEのビデオ通話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所には表示はしている。また、季節感が出るように季節ごとに飾りは変更している。加湿器、エアコンで空調管理はしている。	共用空間は、生活しやすく表示等を配慮して、季節感ある飾りは季節ごとに掲示し、加湿器やエアコンを配置し空調管理を行い、居心地良い生活空間が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には席を決めており、自分の席だと認識されている方もおられ、自然と集まり会話が生まれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れたものを持ってきてもらうように説明はしている。希望があれば、畳の準備もしたり、レイアウトは個々に合うようにしている。	居室は使い慣れた馴染みの物を持ち込むように支援をしている。畳を敷く希望にも対応したり、家族等の写真やコチョウランの植木鉢、ぬいぐるみなど配置され、居心地よい居室の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所、危険なものには表示をしていたり、またリスクとなりうるものは除いたり、事故のないように注意はしている。		